

伊豆大島の林に植えられた
アジサイをみて

奥 富 清

(理事長)

先日（7月中旬）、久しぶりに伊豆大島を訪れた。地元の方の案内もあって、短時間であったが島内各地の植物を見てまわることができた。そのとき、がっかりして「大島よ、お前もか」の感を深くしたことがあった。。

それは、島の東北部にある動物公園付近から三原山外輪山を走る道を登っていると、道の両側に数多くのアジサイが植えられ、さらに自然の林の中にまで植えられているのを見たことである。花のシーズンも終わりに近かったが、それでも白や青紫色の花の列が長く続いていた。

アジサイがガクアジサイの改良園芸種であって（大井：日本植物誌による）、広く各地で植栽されていることはよく知られていることである。そしてまた、アジサイの母種ともいべきこのガクアジサイが、大島をはじめとした伊豆地方を中心に南関東から小笠原まで分布していることもよく知られている。

どうしてその伊豆の大島で、郷土特産の自生種ガクアジサイを差し置いて、園芸種であるアジサイを、それも人家の庭とか公園とかならいうざ知らず、自然の林の中にまで植え込まなければならないのだろうか。ガクアジサイが今もなお、島内至る所に見られるのにである。

たしかに、花卉（がく片）の少ないガクアジサイに比べ、アジサイは園芸品だけあって花卉も多く華やかである。そのため南関東各地のお寺や公園などに多く植えられ、名所となっている所もある。大島でも、アジサイの華麗な花で来島する観光客の目を楽しませたいとの考えから植えたものであろう。しかし、これが逆効果にならないかと心配である。島の人々にとっては何の変哲もない植物かもしれないが、ガクアジサイをもっと重視した方がよいのではないかと強く感じた。



(スイス・1966年発行)
自然保護国際会議記念



平成5年度決算ならびに平成6年度予算

当基金では平成6年5月23日、第3回評議員会、理事会を開催し、平成5年度の事業・決算報告ならびに平成6年度の事業計画の大綱と収支予算案が了承されました。

決算と予算は次表の通りです。

平成5年度決算ならびに平成6年度予算

(単位：千円)

項 目	平成5年度		平成6年度
	予 算	決 算	予 算
(収入の部)			
1. 基本財産収入	2,000,000	2,000,000	0
2. 基本財産運用収入	80,000	64,787	40,000
3. 運用財産収入	20,000	20,000	5,000
4. 運用財産運用収入	600	526	300
当期収入合計(A)	2,100,600	2,085,313	45,300
前期繰越収支差額	0	0	11,276
収入合計(B)	2,100,600	2,085,313	56,576
(支出の部)			
1. 事業費	65,000	55,210	34,000
活動助成	30,000	9,310	10,000
調査研究助成	15,000	45,690	24,000
人材育成助成	5,000	0	0
調査研究委託助成	10,000	0	0
その他の事業助成	5,000	0	0
事業管理費	0	210	0
2. 管理費	20,500	18,427	19,000
3. 特定預金支出	0	400	400
4. 予備費	1,000	0	500
5. 基本財産繰入金	2,000,000	2,000,000	0
当期支出合計(C)	2,086,500	2,074,037	53,900
当期収支差額(A-C)	14,100	11,276	△8,600
次期繰越収支差額(B-C)	14,000	11,276	2,676

百年前の自然保護論

—志賀重昂の「日本風景論」を見直す—

岡本寛志

(専務理事)

今から丁度百年前の明治27年、当時の地理学者志賀重昂が著した「日本風景論」が上梓され、たちまち15版を重ねるベストセラーとなったといわれる。この本は、日本の多様な気候風土が、世界的に優れた風景を生み出していることを、地理学的に解説し、この優れた景観を実際に身をもって知るために、登山を勧め、登山の準備や登山中の注意なども記している。そこでこの本は我が国の山岳図書の先駆として、その方面では有名であるが、注目すべきは「日本風景の保護」という一章を設け、この優れた景観を護らなければならないとして自然保護論を展開しており、この点では、日本の自然保護論の嚆矢といって良いと思われるのだが、このことは案外世に知られていないので改めてご紹介したい。

本の全体の内容は紙面もないので省略するが、例えば植物について、「平面世界にある花木は、自ずから平面世界の感化を受け、且つ人間に成長するを以て、畢竟艶を競ひ媚を呈するもの往々然り。山中に在る花木に到りては然らず、自然の儘に成長し、人間外に不羈独立するが上に、時に風餐雨虐、或は土壤を剝かれ、或は巖石に圧抑せられ、而かも悍然勇往、要するに山中の花木は豪健なり、磊落なり、気骨あり、況んや花は山に開きて愈々鮮かに、木は山に長じて益々蒼翠秀潤を添ふ。花木の妙所を太悟せんと欲せば、山に入らずんば竟に得ず。」と野性植物の美しくさを観察するために登山を勧めている。

さて、本題の「日本風景の保護」の章であるが、まず「此の江山の洵美なる、生植の多種なる、是れ日本人の審美心を過去、現在、未来に涵養する原力たり。」として自然が日本人の美の心の源泉でありこれを失えば「日本未来の人文啓発」を失うに等しい。「而かも近年来人情醜薄、只管目前の小利小功に汲々とし、竟に遙遠の大事宏図を遺却し、或は森林を濫伐し、或は名木、神木を斬り、或は花竹を薪となし、或は古城断礎を毀ち、或は道祖神の石碣を橋梁に用ひ、或は湖水を涸乾し、或は鶴類を捕獲し盡くし、以て日本の風景を残賊（注：傷つけること）する若干が、且や名所舊跡の破壊は、歴史観念の聯合を破壊し、国を挙げて赤裸々たらしめんとす。日本社会は、日本未来の人文を愈々啓発せん為め、益々日本の風景を保護するに力めざるべからず」と、目前の利益のために自然を傷つけ、貴重な文化遺産を破壊する風潮に対し、未来の日本の文化を護るためにも風景の保護に務めねばならないと喝破している。

この思想はまさに、今話題になっている世界遺産条約の精神を、既に百年前に説いているに等しく、世界の自然保護先進国でさえ、ようやく米国のシェラクラブや英国のナショナル・トラストの創設の時期に当たり、志賀の先進性には改めて驚かざるをえない。

ひるがえって百年後の日本を見ると、志賀の時代から我々はどれだけ進歩したのかと思う時、まことに忸怩（じくじ）の感に耐えないのは私だけだろうか。そして本章の終わりに、古歌にも多くその風流を詠まれた宮城野の開発が進み「宮城野を大根植てへらしけり日人、となり了はんぬ。美や、利と未だ相調和せざる、由来同一の感慨。」と結んでいるのも、既に今日の開発と自然保護の相剋の問題を鋭く指摘しているといつて差し支えないであろう。



或る昆虫少年の話



マダラ蝶

戦前の師範附属小学校には、養護学級というクラスがあったことを、あなたはご存知だろうか。つまり身体虚弱児だけのクラスである。小学生の頃、私はいつもそのクラスにいた。その頃の私は一人ぼっちで、アリとかコガネムシとか虫と遊ぶのが好きな昆虫少年だった。そんな私を山に誘い、その結果身体を丈夫にしてくれたのは蝶だった。

中学1・2年の頃私の昆虫採集の対象は主として蝶だった。コムラサキやスミナガシを追って、木に登り鎮守の森を駆けめぐり、アサギマダラに胸をときめかした私は、いつの間にか長崎市郊外の逢火山の頂きに登っていた。500mたらずの山頂からの眺望はよく覚えていないが、空気とうまさと気分のよさははっきり覚えている。

その頃私の蝶のコレクションは約50種であったが、それも全て長崎の原爆で消えてしまった。だが幸い私は被爆しても生き残り、山に登り蝶達を見守る楽しみを未だに忘れず続けている。

門脇 健（事務局長）

第5期プロ・ナトゥーラ・ファンド助成公募の状況

当基金と（財）日本自然保護協会が共同事業として、下記の応募要項に従って7月15日（国内）、7月31日（海外）を締切日として行った助成公募に対して、（国内助成）A. 調査研究 29件、B. 保護・普及活動 14件、（海外助成）9件計52件の応募があった。今後、審査委員会において、厳正かつ公平な選考を行い、9月末理事会において最終決定される。

■応募資格

- 〈国内助成〉 ●自然環境保全およびその研究を目的とする市民団体に属するグループ。
 ●大学研究室・研究機関・公益法人などに属するグループ。
 ●海外の団体や国際団体に属し、日本で活動しているグループ。
 いずれも、助成対象事業を行う体制が整っている組織に限る。
- 〈海外助成〉 ●開発途上国（ロシア・東欧を含む）で、自然環境保全を目的とする研究に従事する個人または団体。ただし、日本人の推薦者を経由して申請すること。

■助成総額 2,200万円

■助成機関 1994年10月～1995年9月

編集後記

第2号をお届け致します。少しは慣れたつもりでしたがそうはいかず、相変わらずの出来ばえです。お許し下さいそれにつけても昨年とうって変わった今年の夏の暑さはどうしたことでしょう。水を欲しがっている植物の喘ぎがはっきりと聞こえてきます。先日、下界が39度の日に国師ヶ岳（2,600m）に登ってきました。涼しい風が吹いていてとても爽やかでした。でも、その5日前に登った白山（2,702m）はまるでフライパンの上を歩いているみたいでした。高いところが必ずしも涼しいとはいえないみたいですね。皆様お身体にくれぐれもお気を付けてください。 岡本和子記

Pro Natura ニュース第2号

発行者：財団法人 自然保護助成基金
発行年月日：平成6年8月12日

〒150 東京都渋谷区松涛1-25-8
松涛アネックス2階
TEL:03-5454-1789 Fax:03-5454-2838